

東京各社撰抜新聞

去る一月廿三日様若座の火と諸新聞より  
 抜華をるに第二番目の切幕が既不明ん  
 とを折し例の釣下を洋燈の石油へ  
 誤り火が移り忽ちハツと燃上りまき  
 火事うといふ内火勢はるく強く  
 なり充満して居る見物あつた如く  
 めく其声の恰も山の崩る如く  
 大方るる収斂動も疾くも巡査方の  
 出張を割み怪我人も少く死す  
 者又二階三階の役者の騒ぎも一方  
 めく平常落着きもの園十郎の  
 我先ゆと有る綿入絆天と端折の  
 細帯をさぐり逃し出ば芝翫半四郎  
 家橋も辛らく其場をのれ  
 たり又相中中通りの役者の  
 高さより飛下りしもあり是  
 らん平常立廻りより身  
 軽さ故左もあふん共ハ下  
 目大の焼失あり午後七時頃  
 鎮火せり右付市村座の  
 太夫元と助高屋を始め  
 我童璃寛田之助関三  
 其外ヨリ若干の金山  
 と施与せしとぞ



御明治十五年  
 一月廿七日  
 演西二番三番十  
 重上守川管楽隊  
 新設一番地  
 出稼人山本平吉

東京各社撰抜新聞 文庫10-8344

8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70